

2021. 3. 18 発行

松山市ボランティア連絡協議会

〒790-0808

松山市若草町8番地2

松山市社協ボランティア活動推進課気付

松山市ボラ連事務局

(開局日 第1・3火曜日 13:00~15:00)

TEL 089-921-2141

FAX 089-921-8360

松山市

ボラ連だより

第 113 号

## ボランティア活動における お悩み解決 第3回研修会

# 「リーダーの育て(ち)方」

3月6日(土)、講師に前田眞先生(愛媛大学社会連携推進機構地域連携コーディネーター《教授・特定教員》・SDGS推進室副室長・地域協働センター中予副センター長)を迎え、リーダーの育成についてお話しをしていただきました。このテーマは、ボランティア活動の広がりや後継者を考えた時に発生する課題の一つです。



まず、「リーダーのイメージは？」との先生の問いに、参加者からは「色々な意見を受け入れてくれる人(傾聴)、経験豊富な人、みんなを惹きつける面白い人、積極的に動く人、アンパンマンのような人(自己犠牲)」などの意見がでました。

以前は、情熱を持って刺激を与えてくれる人がいて、「リーダーが周りに思いを伝えて、一緒にしてゆく。」ということもありましたが、今は、みんなで思いを持つという考え方に変わってきています。みんなで思いを持ち、みんながリーダーとなってゆく。そうでないとリーダーはくたびれてしまうそうです。

そこで、図を描いてリーダーの種類を3つ紹介されました。

「**情熱型リーダーシップ**」(リーダーなりの目標やビジョンがはっきりしている)は、リーダーが自らの人生の使命や目的と向き合いながら情熱的に周囲を導いていくことが特徴。後継者が出にくい。

「**奉仕型リーダーシップ**」(目標やビジョンがはっきりしている)は、指示や命令ではなく、信頼関係を重視し、メンバーの声に耳を傾けながら目標やビジョンを達成してゆく。

「**適応型リーダーシップ**」(目標やビジョンがはっきりしていない)は、多様なメンバーの知識やスキルを活用しながらリードしていき、時には目標やビジョンの達成に相応しい人をリーダーに選出する。

リーダーには色々なタイプがあることを知り、固定観念から抜けださねばならないと思いました。

先生は、みんなの思いを聞き出せるように、相手に関心・興味・好奇心を持ち、背景をイメージするなどして、**傾聴力**を身に付けることと、共通の目標を**自分事化**(じぶんごとか)することが大切とのことでした。

最後に、事例として先生が共同代表を務めている「シトラスリボンプロジェクト」の経緯等を紹介されました。活動は自分にできる「ちょびっと」をどうするか……意思表示をするだけ。話すだけ。リボンは作り方をお教えしますので作ってください。販売もしません。6人からスタートだったそうです。代表は共同代表で2人制。共感してもらえると増えてくる。「自分達が納得できる目標を持ち、達成感を味わえる」ことが大事とのことでした。

先生は参加者みんなの意見を聞きながら進めてくださり、先生の貴重なご講義と、みなさんの意見が聞けてとても学びの多いひとときでした。これからの活動に役立てていきたいと思います。(報告：藤本)

## (参加者の感想)

●前田先生のお話はとてもわかりやすかったです。リーダーは、みんなのまとめ役であり、意見をしっかり聴いてアイデアを取り入れる事だとわかりました。



●以前は**情熱型のリーダー**について行くだけだったので**楽**でした。ここ何年かは各班長が自立してスムーズにできるようになりました。

●リーダーの育て方、育ち方は**時代と共に変わっていくべき**ではと感じた一日でした。

●シトラスリボンの活動は始めて知りました。リーダーでは、**情熱、奉仕、適応、信頼**されるように勉強していきたい。

●リーダーの育て方は大切なことだと思いますが、現リーダー(旧)の意識改革の講習をしていただきたい。ボランティアの世界ではなく社会で見た時、ご自分の成功論にしばられて、傾聴不能なリーダーが多いように感じます。

私を考えても頼み下手、そこには最終責任を考えた時、「信頼しきれてない」を再認識しました。…それは、そのメンバーの人となりを、よくわかっていないところにも要因があるのですね。

どう変えていけばいいのかのヒントになりました。どうしたいかのビジョンカードからまず始めてみようと思います。考える時間をいただけたことに感謝申し上げます。

●各ボランティア団体の悩みを聞けていい会でした。「リーダー」の今の時代に合った像を探すキッカケになりました。**傾聴の大切さを再認識**しました。シトラスリボンプロジェクトの様子がよく理解できました。

## アイデアでイベントを楽しむ♪



ペットボトルのキャップ

石井東グリーンコーラス 菅淳子

コロナ禍の自粛で活動ができず、飛沫感染防止の為、打楽器のみで地域の皆さんと盛り上がりとう思い、昨年末、ハンドベルや手作り楽器でクリスマス会を開催しました。

☆手作りカスタネット☆ 紙パックを切り開き、危なくないように角を丸く切り、両端にペットボトルのキャップを貼り付けます。半分に折り曲げて中央に2箇所穴をあけてモールや毛糸を通したら出来上がり。折り紙のトナカイなどお好みの飾り付けをすると、かわいい自分だけのカスタネットになります。これから、春らしい飾り付けで楽しんでみませんか♪



## ボランティア活動における お悩み解決 第2回研修会

# 「活動資金の集め方」

ボラ連として本年度2回目の講習会を12月5日(土)、松山市総合福祉センター中会議室にて「活動資金の集め方」と題し、行政書士である佐野透氏をお招きして開催しました。

佐野先生は大学卒業後、福祉活動を行うNPO法人に就職され、2005年からまつやまNPOサポートセンターのスタッフとなり、その後行政書士の事務所を開き、現在は様々な団体の設立支援や資金調達などを応援されておられます。

研修会ではまず、「ボランティアとお金の関係を考えてみる」というテーマで話されました。「ボランティアこそ浄財を集める必要アリ！」とのお話には目からうろこでした。

次に「どのくらい欲しいかをイメージしてみる」今、何が欲しいですか？（それはいくらぐらい？）と具体的なイメージをしてもらいました。

最後に、ボランティア団体の資金調達として、主なものは、① 補助金（助成金）、② 寄付金・募金箱・会費、③ バザー・イベント出展収入、④ 事業収入、を挙げられそれぞれの解説をいただきました。そして…

- ① まずは、いくら必要かを考えてみましょう。
- ② 無理せずお金が入る方法を作りましょう。
- ③ 「楽しいこと」に人はお金を払います。

というお話で研修を締めくくられました。

～質疑応答～

Q:助成金の申請の団体資格には法人格の必要はありませんか？

A:助成額が100万円以上の大きな助成金でなければ任意団体でも申請が可能な助成金が多いです。それぞれの申請要綱を確認するといいでしょう。

(報告：金村)

## (参加者の感想)



●お金については、普段考えることが少ないので、改めて考えるよい機会になりました。  
お金をただ「集める・稼ぐ」というところにポイントを置いてしまうと、確かに浅ましいとか欲深いといったイメージになってしまいますが、**お金は**

**目的・理想を達成するために使う手段**であると再認識することができました。

ボランティアという善意の活動であるからこそ、無理をせずに資金調達をして長く活動が続くようにしていきたいです。具体的な調達方法をまとめていただいていたので解りやすかったです。



●資金調達の一つに、集まりの場（サロン）の運営があるとの事でしたが、今まで私の中ではサロンもボランティア活動の一つと思い込んでいたので、会費を集めるという視点が全く欠けていましたが、どんなことにも**柔軟な考え方が重要**であることを改めて感じました。

●ボランティアは、趣味とか**楽しいことの集まりの場を設けて、その輪を広げて行くこと**だということがよく解りました。

●無理せずお金が入る方法としての募金箱の設置の話は最高でした。10件設置できたらと思うと**ワクワク**します。

「楽しい事には人はお金を払う」、改めて実感しました。

「会費は実費より高く設定」、当たり前ですが目からうろこでした。

●**人間は欲があるから頑張れる**。どうしてもお金を集めなければいけない、集めたいと思えば何とかしようと人は自然に動き始める。確かにそうだと思います。そういう気持ちにならないのは、活動への取り組みにまだ真剣さが足りないのではないのかと感じました。また、資金調達の方法について、その長所、短所・注意点についても詳細な説明が聞けてとても参考になりました。今後の活動に役立つと思いました。



## 「シャッフルボラタイム」というミニ交流会

金村厚司

1年間という自粛の日々が続き、すっかりステイホームがスタンダードになってしまい、人と人が交流する場が消えてしまいました。そこで少しでも交流する場が復活していかないかと思い、感染対策を取った上で、3月13日（土）松山市総合福祉センターにてミニ交流会を開催しました。ルールは、参加者が抽選箱からお題が書かれた紙を引き、そのお題について参加者が順次想像力も加えて語って会話を楽しむというもの。今回は1時間半で六つのお題を楽しみました。

よくお会いしている人でも知らない横顔を知ることができ、さらに改善したらもっと楽しめそうな手ごたえは感じました。終わった後、初めて会った参加者同士が廊下でお話しされるなど、やはり、人と人とは交流の場がないといけないなども感じた次第です。

また、おせったい通信で、「シャッフルボラタイム」のイベントを見かけたら、ぜひご参加くださいね。お待ちしております。

### 《4月の予定》

4月17日（土）：令和3年度松山市ボランティア連絡協議会総会



【編集後記】マスクの下、気にしていますか？久しぶりのZOOMで、パソコンの画面にみんなの顔が並んだ時、自分の顔の衰えにビックリ。見えなくても思いっきりの笑顔で、表情筋をきたえて、手洗い・マスク・ソーシャルディスタンスに気をつけながら、いつかの「マスク無しの生活」へ準備をしなくては…。(J)